



翔工

大分大学理工学部(工学部)
同窓会機関誌

第
33
号

大分大学理工学部(工学部) 同窓会「翔工会」
〒870-1192 大分市旦野原700 大分大学理工学部内
電話 097-554-7823
令和5年3月17日発行

機関誌「翔工」第33号の発行にあたって

同窓会長 戸 高 孝



機関誌「翔工」第33号をお届けいたします。同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと存じます。また、平素より同窓会の活動に対しますご支援とご協力に心より厚くお礼申し上げます。

本年度より、私儀会長に就任いたしました。前任の松尾孝美会長が平成22年から14年間の長きに渡り安寧化し、築き上げてまいりました同窓会の体制を堅持し、献身や奉仕の精神を守りながら、翔工会の発展に貢献したいと考えております。

過去の機関誌を確認いたしましたところ、平成14年から平成17年と平成20年から平成21年に引き続き3回目になります。平成21年は大分大学工学部創立30周年記念の年であり、平成29年に工学部から理工学部へ改組されましたが、本年度は創立50周年記念に当たる節目の年になりました。令和2年1月からの新型コロナウイルスの蔓延に伴う感染対策のため祝賀会は中止となりましたが、令和4年10月18日に大分レンブラントホテルの二豊の間で、創立50周年記念式典と記念講演会(詳細は本誌に別途報告記事があります。)が執り行われました。150名に人数制限された会場で、オンラインでの配信を行い、近々には

大分大学のホームページで、式典の模様や記念講演の動画が公開される予定になっております。記念誌も発行予定でWeb観覧できるようになります。ご寄稿やご寄附をいただきました同窓生の皆様へ、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

創立50周年記念における同窓会から理工学部への目的を指定しての寄付については、翔工会教育プログラム基金(毎年120万円程度)を設けて、大学院生の国際学会発表の渡航旅費補助や学部生のプロジェクト教育活動支援を行うことになりました。また、教育のイノベーションのためのWeb配信システムの強化を目的とした事業(金額:2000万円程度、調査費200万円を含む)を理工学部と協議の上実施することにしております。具体的な内容については、今後ワーキング会議で決めていく予定です。

一方、理工学部は、次年度(令和5年4月)より改組される予定で、理工学部理工学科に統一されます。これまでのコース制度を廃止し、カリキュラム主体でのプログラム制を導入して、機械工学プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、知能情報システムプログラム、生命・物質化学プログラム、建築プログラム、知能機械システムプログラム、数理科学プログラム、物理学連携プログラムと地域環境科学プログラムの9プログラムが新たにスター

トします。入学定員は最も多かった平成9年の420名から、理工学部へ改組して385名となっておりますが、次年度は355名になる予定です。新学部の特徴としては、理学と工学の融合ならびに複数の専門分野を学べる副プログラム制です。また、情報処理力やデータの収集・分析力を養うデータサイエンス科目が基礎科目に位置付けられています。高校でも令和4年度から「情報」科目が必修化され、令和7年には共通テストの試験科目にも加えられる予定で、ネットワークやデジタルツールを適切に利用できるスキルに加え、プログラミング学習を通して、情報社会で生きる

力を身につける教育が始まっています。大学も社会の変遷に対応すべく改革を断行して進化していくことが要求されています。

コロナ禍で活動が停滞していた同窓会ではありますが、今年の春には、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方向との新聞報道もあり、今後同窓会の活動の場を広げていければと考えております。最後になりましたが、同窓会の活動に、より一層のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、同窓生の皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。

学部長からのご挨拶



工学部同窓会「翔工会」の会員の皆様には、益々ご清祥でお過ごしのことと存じます。

令和2年度から理工学部長を仰せつかっておりました越智義道です。学部長を拝命してからこれまで、新型コロナウイルスへの対応に追われてきていましたが、社会がこのウイ

ルスとの共存の方向にシフトし、経済活動も元に戻していく動きが本格化しているようにしています。大分大学でも依然としてウイルス感染のために自宅待機を命ぜられる学生の皆さんもいますが、重症化する状況はほとんどなく、折り合いを付けながら講義やゼミ、サークル活動が徐々に通常状態に戻りつつあります。ただ、この間大学での諸活動においてもオンライン化やIT活用の方策が定着してきており、この通常状態が意図するものは、元に戻るというよりは新たな定常状態に移行しつつあることを意味しています。それがより高いレベルでの状態に落ち着くよう日々努力をしています。

令和4年度は理工学部にとっては節目の年でした。その一つは工学部設置から50年を迎えたことです。学部発足から半世紀を迎えたことを記念して50周年記念事業を実施しました。この事業では、創立50周年記念式典・講演会の挙行、屋根付き通路の設置、大分大学基金等を活用した寄付金募集、50周年記念誌の発行等を行いました。

創立50周年記念式典は、10月18日にレンブラントホテル大分で、県内の産業界、教育界からも多数の参加をいただき盛大に実施することができました。文部科学省高等教育局長池田貴城氏、大分県知事広瀬勝貞氏、大分市長佐藤樹一郎氏代理・副市長久渡晃氏、大分県工業連合会会長古手川保正氏に来賓として祝辞を賜り、続いて、理工学部長、戸高孝同窓会長からご挨拶をさせていただきました。その後、東京大学理化学研究所創発物性科学研究センター副センター長の相田卓三卓越教授から示唆に富んだ大変興味深い記念講演をしていただきました。コロナ禍の中での開催で、参加者を絞った中での実施となり、多くの同窓生の方々にご参加をいただくことが叶わず残念でしたが、この模様は動画として残し、学部のホームページから参照できるように設定しておりますので、お時間がとれましたら是非ご覧ください。

理工学部長 理工学部 教授 越智 義道

また、理工学部後援会から、50周年記念として、理工学部第1講義棟から大講義室104号教室の間に屋根付き通路を設置いただき、令和5年1月28日に佐土原敏郎後援会会長から贈呈を受けました。この通路のおかげで、今後は雨の日でも、第一講義棟の教室や学生ラウンジから104号大講義室へ傘を差さずに移動できるようになりました。

さらに、50周年を機に学生支援や教育研究活動の国際化および環境整備事業を推進するために、大分大学理工学部支援基金の制度を創設し、募金活動を開始しました。これまでに、関係の企業、卒業生や理工学部教職員として関係された方々から多くのご支援を頂いております。同窓会「翔工会」からも、翔工会教育プログラム基金の提供と教育のイノベーションのためのWeb配信システムの強化の支援を頂きました。ありがとうございました。この理工学部支援基金による募金活動は引き続き継続して実施しておりますので、今後ともご高配を賜りますようお願いいたします。

これらの事業の様子を含めて、工学部発足から今日の理工学部に至る足跡、関係した教職員や卒業生からの声等を50周年記念誌に取りまとめる作業を行っています。本年度内に刊行すべく、創生工学科電気電子コースの金澤誠司教授を中心とした編集委員会で精力的に作業を進めていて、もうすぐ出来るところまで来ています。出来上がりましたら理工学部のホームページにも掲載する予定で準備を進めておりますので、こちらも是非ご覧ください。

もう一つの大きな出来事は、昨年のご挨拶の際に少し触れていました、理工学部の新たな改組による教育課程が、今年の夏に文部科学省から認められたことです。これにより、令和5年度からは新体制での理工学部へ新入生を迎え入れることになります。新たな理工学部では、これまで創生工学科と共創理工学科の2学科8コース体制から、学科としては理工学科に一本化され、9プログラム体制へ移行することになります。この体制に移行することにより、理工学部におけるプログラム間の連携を促進し、各プログラムでの専門性の陶冶に加えて、自分の専門分野のみに閉じこもらないで、より広く科学技術の展開について考えることのできる人材の養成を目指すこととなります。大学全体では理工学部の改組と同時に医学部に先進医療科学科が出来ますが、特に、このうちの臨床医工学コースとは教育面でも密接な連携を取ることで、大分大学における医工

連携がより進展することが期待されます。理工学部を設置する9つの教育プログラムとしては、数理科学、知能情報システム、電気エネルギー・電子工学（旧電気電子コース）、機械工学（旧機械コース）、知能機械システム（旧福祉メカトロニクスコース）、生命・物質化学（旧応用化学コース）、建築学の7つのこれまでのコースでの教育を継承するプログラムに加えて、新たに、物理学連携、地域環境科学の2つのプログラムを設けることにしました。物理学連携プログラムでは工学の基礎となる物理学について専門的に学ぶとともに、科学技術の進展に係るその展開・応用能力の養成を行い、地域環境科学プログラムでは環境変化に関する理解のもとに、防災や都市・地域計画あるいは土木の観点についても思考できる人材の養成を行うこととしました。また、学部全体として情報・データサイエンス教育を推進することも計画しています。このような教育課程の再編により、昨今、世界規模で起きている大規模な気象変動と激甚化する自然災害の発生、あるいはこれを受けたカーボンニュートラルへの急速な展開など、社会や産業構造そして技術開発の変化に対応し、イノベティブな

科学技術革新の担い手となって、未来の社会を牽引して活躍してくれる若者を社会に送り出すことを目指しています。

最後になりましたが、これまで学部長として3年間務めさせていただいておりましたが、この3月をもちまして理工学部長を退任し、同時に大分大学も退職することとなりました。令和5年4月からは、小林祐司教授に学部長のバトンを渡すことになります。小林先生には新しい理工学部の枠組みを最大限に活用し、進化させて行っていただきたいと願っています。これまで、「翔工会」の会員の皆様には、在任中多方面から支えて頂き、本当にありがとうございました。改めて心よりお礼申し上げます。

現在新型コロナウイルス対策もその出口に近づきつつあるように思いますが、まだまだ予断を許さない状況です。加えて欧州での争いは世界経済に大きな影響を及ぼし、緊張の高まりと同時に先行きの不透明な状況をもたらしております。そのような世相ではありますが、「翔工会」の会員の皆様におかれましては、ご健勝でお過ごしになられ、そして、より一層のご発展を遂げられますよう祈念いたしております。



<創立50周年記念式典・記念講演会>



<50周年記念事業「屋根付き通路」>

退職される先生より

理工学部 共創理工学科 応用化学コース 教授 豊田 昌宏



2023年3月末に定年退職を迎えることになりました共創理工学科応用化学コースの豊田です。私の大分大学への赴任は、2004年の1月1日付けで、当日の早朝、暗い時間に別府港にフェリーで到着しました。あれから大凡19年間、月日のたつのは早いものです。大学卒業後から考えてみますと、電気関係の民間企業に就職し、イリノイ大学での研究員生活、工業高等専門学校での教員生活、長くても10年で、生活のリズムが変わっております。その間に学位取得で大学に戻ったり、考えてみますともっと短いサイクルで、生活が変わっていることになると思います。振り返って考えますと、大分での教員生活は長く、居心地が良かったのか、抜け出せなくなったのか・・・？ これまでの研究・教育生活を振り返ってみたいと思います。学生時代は、炭素材料の研究室に所属していたにもかかわらず、ひとりだけ他の学生と異なる、白物（炭素材料が黒いので、それと区別されていました）のセラミックス材料のDeby-Waller因

子の研究を、XRDを使用して行っておりました。当時、PCが機器に接続されているというようなことはなく、関数計算から、強度計算の足し算まで、すべてを手計算でやっていたことを思い出します。白物を扱っていたので、学位も強誘電体セラミックスに関連するもので得ております。その後、教員になる機会を得て、恩師に誘われて、30年近く黒物の炭素材料の研究を続けることになり、今に至っております。黒鉛層間化合物の調製から、鋳型を用いた多孔性炭素材料の調製、黒鉛の剥離によるグラフェンの調製、炭素繊維の電気化学処理による微小化（膨張化炭素繊維）、それらの電池の電極への適用等、幾つかの研究が思い出されます。膨張化炭素繊維の調製は、なかなか上手くすすまず、それでも諦めずに頑張ってくれた学生さんのおかげだと思います。その結果をCarbon誌に投稿して、Publishされた直後に、差出人の名前の無い「Congratulation!」のメールが届き、何だ!? このメールはと思って、どちら様ですか？ と、折り返しのメール送ったところ、君の論文のReferenceの〇〇番だ、と返事が届き、それが大御所のBohem先生で、大感激したことを思い出します。

大分での在職期間中には、NEDOや科研費等の研究費

を戴き、幾つかのプロジェクトに参画できたこと、また、多くの企業様と共同研究をすることができ、多くの経験を積むことができました。学生さんにも共同研究プロジェクトに参加してもらいました。参画することになった学生さんには、発表を義務づけたので、その準備などいろいろ大変だったでしょうが、勉強、良い経験になったのでは？と勝手に思っております。幾つかの企業様には、大分在職期間中継続してサポートを戴いたことには、成果が出たのかよく分かりませんが、本当に感謝です。

在職中、学部長職にあり、工学部から理工学部への改組に取り組みました。別の処で記載しておりますので、ここでは触れませんが、その職の間、研究室の先生方、学生の皆様には、かなり迷惑をかけたのではないかと思います。サポートして戴いた先生、技術職員、非常勤職員の皆様、学生さんには、改めて感謝する次第です。

国内で炭素材料を扱う研究室が減少し、絶滅危惧種のような状態になっております。思った通りの結果に結びつくことは希で、思いがけないような結果がでることばかりだったのかもしれませんが。諦めの悪いのが幸いしたような研究結果が幾つかあります。学生時代に助教授の先生に、豊田から、「諦めの悪さを取ったら、何にも残らん！」と言われ、仰るとおり、と研究を続けてきたのが良かったのかもしれません。定年まで研究生生活を続けてこられたのは、頑張っ研究を続けてくれた学生さんと大学での研究環境かと思います。これまでに世話になった皆様に、改めて感謝をして、こらで、終わりにしたいと思います。

この先、もう少し研究が続けられることになっております。一緒に研究をする学生さんはいなくなりますが、あと、もう少しだけ、いろんなことに挑戦したいと思います。これからも大分大学理工学部の益々の発展と同窓生の皆様のご活躍を願ってやみません。ありがとうございました。このあたりでペンを置きます。

「退職を迎えて」

理工学部 創生工学科 福祉メカトロニクスコース 教授 松尾孝美



私の大分大学のスタートは、昭和51年（1976年）4月にエネルギー工学科の2期生として入学したことに始まります。まだ、一期校、二期校のあるときで、私が受験した年は、受験者が多く、工学部の入試は会場が足りず、大分高専の体育館で受けた記憶があります。入試時期も3月

20日過ぎで、前期講義の開講も4月中旬でのんびりしていました。エネルギー工学科2期生も個性豊かな人が多かったです。エネルギー変換の観点から電気工学と機械工学をエネルギーの視点から教育するという斬新な学科でした。講義科目の電気工学と機械工学の主要科目である電磁気学、電気回路、電子回路、電気機器、電気物性工学（超伝導工学）、送配電工学、制御工学、熱力学、材料力学、流体力学、機械力学、蒸気工学、ボイラ工学、機械設計学、工作機械などの講義科目を履修しました。講義科目が多かったため、実験は3科目でした。実験科目である工場実習では、旋盤、フライス盤、アーク溶接、エアーハンマーによる鍛造、キューボラによる鋳物製造などがあり、ビジッたのを覚えています。以下の写真は、学生に配布された大分大学概要（昭和51年）と工学部概要（昭和53年）です。



<図1>



<図2>

ました。通産省のサンシャイン計画に参画し、屋上にソーラーパネル（現在主流の太陽電池ではなく、太陽熱温水器から構成されています）を装備して、冷暖房ができる建物でした。天井に輻射板が取り付けられ、輻射熱冷暖房が可能でした。大学の講義で一番印象的だったのは、岡田英彦先生のエネルギー変換工学で、テキストは、宮入庄太先生の電気・機械エネルギー変換工学です。この講義で、電気工学も機械工学も、定式化すると同じ数式で表すことができるというのが、とても印象に残りました。このとき、数学は工学の最も基礎であることを痛感しました。4年生の卒業研究は、超伝導を研究していた江崎忠男先生のゼミに所属し、一様磁界分布を実現する導線配置の最適化計算を行いました。当時は、計算機センターにいて、パンチカードにFORTRANプログラムを打ち込んで、読み込ませて、バッチ処理するものでした。計算結果は、午前中1回、午後1回がやっとでした。簡単なプログラムは、HPのプログラム電卓を使っていました。今では、考えられないくらい効率が悪かったですが、その分、理論の理解に時間をかけられました。卒論の発表も模造紙に手書きしたものを使いました。

その後、昭和55年（1980年）4月に九州大学大学院総合理工学研究科エネルギー変換工学専攻に入学し、相良節夫研究室で制御工学を勉強しました。制御工学の研究室に

入ったのは、エネルギー工学科で電気工学も機械工学も数学モデルで一般化できることを学んでいましたし、その数式モデルである伝達関数や状態方程式を用いて、観測値から内部状態を推定したり、所望の状態に操作する制御入力を導出するなど、数式がベースだったからです。研究グループは助手の中野和司先生の分布定数系グループで、当初は偏微分方程式の内部状態推定を研究していましたが、線形制御理論の1手法である完全制御に変えて学位をいただきました。相良先生、中野先生には親身に指導していただき、とてもお世話になりました。

5年間で工学博士を習得したあと、昭和60年(1985年)4月に母校の大分大学工学部の電気工学科、富永明先生、杉坂政典先生の研究室に助手として、採用していただきました。当時は、PC9801が全盛で、8インチのフロッピーディスクを使って、N88BASICで計算していました。昭和63年(1988年)5月から、岡田先生、江崎先生のご尽力でエネルギー工学科助教授として異動しました。エネルギー工学科に移動した年の秋から平成2年にかけては、当時の機械工学科助手の松岡寛憲先生の呼びかけで、同窓会の正常化への取り組みに参加しました。当時の執行部は使途不明金のために、平成元年6月3日に退陣して、新体制に移行しました。私が会長代行、戸高孝先生が副会長、松岡先生が会計として会の運営にあたりました。当時は、報道機関へのリークもあり、使途不明金の件がテレビ報道されました。講義を終えたあと、TVに私の顔が映されましたが、調査中で話すことはないといったのを覚えていますが、自宅に帰ると、報道機関から電話が鳴り続け、応対が大変だったのを覚えています。その後も使途不明金の説明を当時の元会長に求めましたが、納得のいく回答は得られませんでした。当時は、告訴すべきという意見と会の正常化を優先すべきとの両方の意見がありました。結局、口座からは、お金の流れがはっきりせず、告訴は無理と判断して、会の正常化を優先しましたが、そのことでは、いまだにしこりが残っています。先日、部屋を片付けていたら、平成2年5月5日に開催された工学部同窓会総会の資料を見つけました。この総会は、この件の顛末を説明するために開かれた最初の総会でした。その後、当時の会長を会員権利停止処分して、その件を平成4年3月に発行した機関誌「翔工」に実名入りで掲載しました。さらに、平成4年には、工学部創立20周年記念式典を開催しました。同窓会では、松岡先生のご尽力がとても大きく、記念品の文鎮も実習工場で手作りされたものです。この間、私は研究の方向性が定められず、なかなか論文がかけずに、研究面でも苦しんでいました。とても、苦しかった経験です。

平成5年(1993年)3月から10か月間、ミシガン州アナーバにあるミシガン大学電気電子工学科 Pramod Khargonekar教授の研究室の文科省若手在外研究員として滞在しました。滞在中は、図書館での論文読み、テニスと

米国内の旅行だけをしたましたが、これが、その後の研究の方向性を見つけるきっかけになりました。夜、図書館で論文探しをしていると、学生のみなさんの必死な表情が印象的でした。アメリカでは、垂直の壁を上るように必死に研究しないと、落ちていくのだと感じました。私のころまでは、毎年、各国立大学には在外研究員の枠が来ていましたが、その後、文科省の制度変更により、大学から教育プロジェクトで在外研究員を応募するという形に変わり、大分大学からはなかなか長期の在外研究で海外に行くことができなくなってしまい、とても残念です。翌年、日本に戻ってからは、制御工学の著名な国際会議(IEEE CDC, IFAC world congressなど)で発表するように努めました。

平成9年(1997年)4月から、当時の工学部長の宮川浩臣先生が新設に尽力した福祉環境工学科に異動しました。福祉機器コースと福祉建築コースがあり、福祉機器コースの電気系に所属していました。電気系の教授は黒岩和治先生で、私が助教授、末光治雄先生(エネルギーから異動)が助手でした。末光先生には、研究室の研究や教育など運営面でとてもお世話になりました。平成10年の予算決算書では、各教員当たりの研究費は200万円以上ありましたが、今はとても少なくなっています。その後、機械系に池内秀隆先生、電気系に星野修先生が着任してこられました。星野先生は計算論的神経科学を研究しており、とても研究面で刺激を受けました。バースティングニューロン、カオス暗号通信や植物の概日リズムの研究をはじめたのは、星野先生の影響です。研究の視野を広げていただいた星野先生にはとても感謝しています。福祉機器コースの名称では、企業の就職に苦勞しました。企業では福祉機器に特化しているとの誤解から、なかなか推薦の依頼が来ませんでした。その後、建設工学科と福祉環境工学科の統合により、コース名を建築コースとメカトロニクスコースに変更しました。これにより、就職状況は改善されていきました。また、同窓会では、楠敦志氏が会計に就任しました。さらに、同窓会活動の充実のために、後藤祐子氏が同窓会事務として勤務されるようになりました。

平成29年(2017年)4月に、工学部から理工学部へ改組されました。我々のコースは、創生工学科福祉メカトロニクスコースに、建築コースは、創生工学科建築学コースになりました。この間、植物の概日リズムをシミュレーションで研究していましたが、当時の大分高専教授の小西忠司先生との共同研究で、インキュベータを使った実験装置を作っていただきました。また、末光先生の定年退職のあとに、当研究室に上野尚平技術職員がはいってこられました。学生の研究指導ではとてもお世話になりました。特に、移動ロボットの制御設計法をZMP社のロボカーに実装して、シミュレーションだけでなく、実験データとして結果を出すことができたことに感謝しています。

とりとめの話になりましたが、これまでの38年間の出来事をまとめてみました。令和4年には、同窓会長が戸高孝先生(創生工学科電気電子コース教授)に交代しました。引き続き、会計は楠敦志先生(創生工学科電気電子コース助教)に、同窓会事務は後藤祐子氏に引き受けていただいています。このコロナ禍で私ではあまりうまく運営できずに、同窓生のみなさんにご迷惑をおかけしました。戸高先生、楠先生、後藤さんをはじめ、評議員や理事の方々には、忙しい中同窓会の運営にご尽力いただき、とても感謝しています。さらに、これまでお世話になった旧電



＜図3 20周年文鎮＞

気工学科、旧エネルギー工学科、旧福祉環境工学科、そして現在の創生工学科福祉メカトロニクスコースの教職員の皆様には、大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。

国立大学法人化以降、大学をとりまく状況は一変しました。法人化のときには、地方大学のくせにミニ東大を目指している、身の程にあったことをしと、どこの地方大学も責められてきたように思います。しかしながら、研究は企業ではできない新しいもの、面白いものとやるのが一番で、教育も学問の基本と研究の姿勢を学び、本物を見る目

を養うことにあっていると思っています。その意味では、大学の序列は関係ないわけです。社会に出ている卒業生の方々と、ある程度の経験を積むと、仕事の中で自分にしかできないやりがいを体得した方も多いと思います。最近、Youtubeで、オンライン家庭教師「メガスタ進路支援室」の方が、地方国立大学工学部は、どこも一流、偏差値は関係ないとエールを送っています。私もそう思います。大分大学理工学部と同窓会の更なる発展と皆様方のますますのご奮闘とご幸運を心よりお祈りします。

同窓会連合会行事報告

同窓会会長 戸 高 孝

同窓会連合会の第1回役員会が、令和4年5月17日（火）にメール審議で行われ、役員の交代が承認されました。第2回役員会は、久しぶりに対面で令和4年6月10日（金）に開催され、決算書や予算書ならびに令和4年度の行事計画が承認されました。行事計画としては、大分大学と同窓会の合同交流会（北九州市予定）は、新型コロナウイルスの感染者の拡大もあり中止することにしましたが、ホームカミングデーと同窓生による講演は、状況をみて再度開催の判断をすることになりました。

令和4年9月の時点で、11月の旦野原キャンパスでの学園祭（蒼稜祭）が縮小され11月6日（日）は中止と

なったため、ホームカミングデーも中止となりました。この2年間は機関紙の発行以外は活動ができておりませんので、同窓会連合会への会費も徴収無しとなっています。

令和4年度の行事報告並びに会計の支出状況の報告のため、令和5年3月中に第3回役員会が開催される予定です。

同窓会連合会の機関紙(No.8)は「翔工会」のホームページにリンクしておりますので、ご覧いただければ幸いです。

同窓会連合会：

<https://www.alumni.oita-u.ac.jp/news.html>

機関紙No.8：

<https://www.alumni.oita-u.ac.jp/annai/kikansino8.pdf>

「大分大学理工学部創立50周年記念式典・記念講演会」報告

同窓会会長 戸 高 孝

昭和47年に工学部が機械工学科と電気工学科の2学科からスタートし、令和4年5月で50周年を迎え、令和4年10月18日（火）14時から、創立50周年記念式典と記念講演会がレンブラントホテル大分の二豊の間で開催されました。記念式典では、北野学長の式辞に続き、来賓祝辞（池田文科省高等教育局長＜オンライン＞、広瀬知事、佐藤市長＜代読＞、小手川工業連合会会長）があり、これを受けて越智学部長と同窓会長の挨拶がありました。祝賀会は当初予定されておりましたが、新型コロナの感染拡大のため中止になりました。

記念講演会は休憩を挟んで15時30分から開催されました。講師は相田卓三氏（東京大学卓越教授）で、演題は「研究者人生を選んだ理由とこれまでに振り返って」でした。相田教授は佐伯市出身（上野丘高校卒業）で、近年ノーベル賞の候補に何度も選ばれている超分子科学の先駆者です。最後に、越智学部長よりお礼のご挨拶があり幕を閉じました。

記念式典ならびに記念講演会は大分大学のホームページ（下記URL）より、動画配信（ライブ、録画）を予定しております。

<https://www.st.oita-u.ac.jp/ceremony/ceremony.html>



＜創立50周年記念式典会場風景＞

・卒業証明書の問い合わせについて

最近、同窓会に卒業生から卒業証明書の問い合わせが多く見られます。同窓会では証明書等の発行業務は行っておりませんので、卒業証明書等のお問い合わせやお申込みは、下記のところをお願いいたします。

住所：〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学理工学部学務係
電話：097-554-7757 または、7758

旦野原キャンパス・Photo Gallery

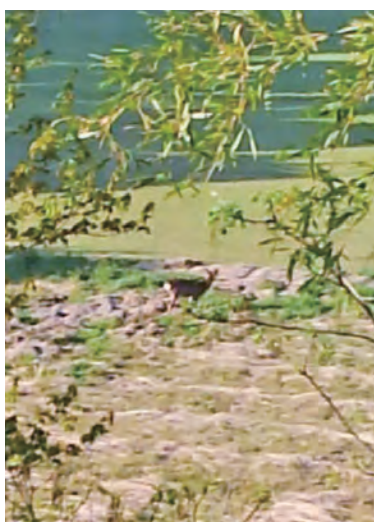
- JRの大大大学前駅近くに令和4年11月1日にコンビニがオープンしました。荒れた里山だった部分を削り、コンビニができるまでの写真を掲載いたします。右の建屋は留学生宿舎（旧独身寮）です。



- 写真左：令和4年9月17日の台風14号の影響で、女子寮線で倒木が数カ所ありました。
写真右：コールレティッヒの部室の傍の竹も倒れて道を塞いでました。



- 写真左：コロナ禍で学生が登学しなくなり、野球場に鹿がいました（写真中央部）。
写真右：また、経済学部横ではアナグマが朝遊んでました。



お 知 ら せ

・退職者の紹介

共創理工学科数理学コースの越智義道教授、共創理工学科応用化学コースの豊田昌宏教授、創生工学科福祉メカトロニクスコースの松尾孝美教授（翔工会前会長）、創生工学科建築学コースの中武啓至技術職員が令和5年3月をもって退職されます。

・学位取得者の紹介

令和4年度博士学位を取得された方々を紹介いたします。（学位記番号順・敬称略）

原 模 稔 幸、Siwat Lawanwadeekul

同窓会活動状況

令和4年度の活動状況および現在の理事、評議員の名簿を以下に掲載いたします。

■ 活動状況

§ 令和4年5月6日（金）

評議員会・理事会合同会議（オンライン開催）
議題

- （1）会則の変更について
- （2）工学部創立50周年記念行事での同窓会よりの支出案について

§ 令和4年6月7日（火）

第1回 理事会（オンライン会議）
議題

- （1）役員の交代について
- （2）評議員・理事合同会報告について
- （3）令和3年度決算書（案）及び監査について
- （4）令和4年度予算書（案）について
- （5）工学部創立50周年記念行事について
- （6）同窓会連合会について
- （7）その他

§ 令和4年8月2日（火）

第2回 理事会（オンライン会議）
議題

- （1）令和4年度評議員会の開催について
- （2）令和4年度監査状況について
- （3）部会則の改定ならびに施行について
- （4）同窓会連合会について
- （5）その他

§ 令和4年10月18日（火）

創立50周年記念式典・講演会
（レンブラントホテル大分）

§ 令和4年10月29日（土）

評議員会（オンライン会議）
議題

- （1）令和3年度事業報告

- （2）令和3年度決算報告・監査報告

- （3）令和4年度事業計画（案）

- （4）令和4年度予算書（案）

- （5）その他

- ・理工学部（工学部）50周年記念事業について
- ・部会則の改定ならびに施行について
- ・報告事項

- （6）令和5年度評議員会開催予定（案）について



<2022評議員会（オンライン）>

§ 令和4年11月30日（水）

第3回 理事会（オンライン会議）
議題

- （1）令和4年度評議員会報告について
- （2）機関誌「翔工第33号」の編集について
- （3）卒業祝賀会ならびに記念品について
- （4）その他

§ 令和5年2月7日（火）

第4回 理事会（オンライン会議）
議題

- （1）機関誌「翔工第33号」の編集について

- (2) 卒業祝賀会および卒業記念品、退職記念品について
- (3) 令和4年度評議員会よりの検討事項について
- (4) 旧部会の解散に伴う部会銀行口座の解約について
- (5) 役員の交代について
- (6) 卒業生の住所調査について
- (7) その他

§ 令和5年3月中旬
第5回 理事会 (オンライン会議)

§ 令和5年3月17日 (金)
機関誌「翔工第33号」発行予定

§ 令和5年3月23日 (木)
卒業生祝賀会開催予定

■ 支援助成事業等

§ 学科・留学生補助:
留学生友の会 (年会費)
各部会の学科行事補助 (講演会補助など)

■ 理事名簿

会 長 戸高 孝 (電気昭58卒)
副会長 松尾 孝美 (エネ昭55卒)
会 計 楠 敦志 (電子平2卒)
顧 問 新見 昌也 (機械昭59卒・61院修了)
齋藤 国壽 (機械昭53卒)
森 勝浩 (機械昭63卒)
藤澤 徹 (電子平5卒・7年院修了)
雲井 将文 (電気平2卒・4院修了)
吉野 清己 (機械昭52卒)
菅木 禎史 (電気平3卒・5院修了)
江口 正一 (エネ昭54卒・56院修了)

理 事

” 齋藤 晋一 (エネ平2卒・4院修了、機械部会長)
” 助田 毅仁 (修士課程在学、機械副部会長)
” 土井 健汰 (修士課程在学、機械代表理事)
” 原 正佳 (電気平3卒・5院修了、電気部会長)
” 槌田 雄二 (電気平4卒・6院修了、電気副部会長)
” 佐藤 尊 (博士課程平23修了、電気代表理事)
” 西島 恵介 (組織平1卒・3院修了、組織部会長)
” 賀川 経夫 (組織平3卒・5院修了、組織副部会長)
” 足立 徳子 (組織平5卒、組織代表理事)
” 牛ノ濱三久 (応化平7卒・9院修了、化環部会長)
” 都築 悠平 (修士課程在学、化環副部会長)
” 黒木 正幸 (建設平1卒・3院修了、建設部会長)
” 富来 礼次 (博士課程15修了、建設副部会長)
” 秋吉 善忠 (博士課程24修了、建設代表理事)
” 有田 遼子 (修士課程在学、福祉部会長)
” 吉井 悠帆 (修士課程在学、福祉副部会長)
” 久保 由紀 (修士課程在学、福祉代表理事)
” 穴井 真人 (修士課程在学、数理学部会長)
” 児嶋 智司 (修士課程在学、数理学部副会長)
” 岡田弘太郎 (修士課程在学、自然科学部会長)
” 石橋 朋樹 (修士課程在学、自然科学部副会長)

■ 評議員名簿

大分支部	支 部 長	飯星 允規	(電気平17卒・19院修了)
	副支部長	塚本 賢治	(知能平19卒・21院修了)
	副支部長	東 宏治	(エネ平11卒・13院修了)
福岡支部	支 部 長	小田 誠雄	(組織昭59卒・61院修了)
	副支部長	上田 和徳	(建設平3院修了)
	副支部長	深田 啓輔	(化環平5卒・7院修了)
熊本支部	支 部 長	柿下 耕一	(電気昭61卒)
	副支部長	水野 節	(機械平14卒・16院修了)
	副支部長	本田 恭久	(福祉建築平20卒)
大阪支部	支 部 長	平岡 学	(機械昭63卒・平2院修了)
	副支部長	橋本 芳典	(電気平12卒・14院修了)
	副支部長	中矢 繁芳	(福・機器平16卒・18院修了)
東京支部	支 部 長	柏原 康彦	(機械昭56卒)
	副支部長	後藤 正徳	(エネ昭57卒)
	副支部長	豊田 耕一	(電気昭58卒)

計 報



次の方の計報に接しました。
謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

機械工学科 昭56年卒 薦 田 康 弘 様

電気工学科 平5年卒 木 幡 満 雄 様
(令和4年5月)

電子工学科 平5年卒 高 見 鉄 平 様

博士後期課程 物質生産工学
平10年修 鯉 沼 康 美 様

研究室だより

創生工学科機械コース 機械加工学研究室 講師 本田 拓 朗

機械加工学研究室は、私の着任に伴い（当時平成31年4月、翌令和元年スタート）開設させて頂いた研究室であります。教職員の皆様、学生諸君のサポートのお陰で、何とか5年目を迎えております。初年度から卒業研究生5、6名をお預かりして、ようやく大学院進学者も加わりつつあるところです。私の研究分野は、機械要素・トライボロジーに関する内容で、学生時代からの主なテーマとして、水潤滑下におけるシール（密封）機構の低摩擦化について取り組んでおります。したがって、機械工作や生産加工の研究者としては素人ですが、研究室名には敢えて“機械加工”というフレーズを入れました。理由は、当時の公募条件に工場実習や加工の教育研究に対する期待を（私が勝手に）感じたこと、看板名に掲げることによって、研究分野の開拓につなげたいという想いからであります。

機械装置には、オイルなどの作動流体を密封し、外部環境からの異物や流体の侵入を防ぐためのシール（密封）機構を備える必要があり、動力軸部においてはスムーズな運動（潤滑）との両立が求められています。シール部品の低

摩擦（省エネ）や低摩耗（長寿命）を実現するため、国内ではメーカーを中心に日々研究が行われており、高品質なMADE IN JAPANが世界中のキカイを支えています。一方で、用途によっては、研究開発の余地も残されているのではないかと考え、水回りの防水用途に特化した接触式シール（シールリップ材）に着目したのが、現在までのメインテーマであります。シールの性能評価を行うための市販装置はありませんので、実験装置の設計から加工も自ら行うのが、当研究室のスタイルであります。そういう点では、工作機械にも慣れていると自負しております。

大分着任後のご縁によって、共同研究・開発もいくつか取り組むことができております。まだ案件も少ない中での偶然ではありますが、土木関係の民間企業様方々より、資材の摩擦や加工に関する課題を頂いております。学外の皆様とも一緒に取り組ませて頂く中で、加工や装置開発に関する研究テーマやスキルを拡充しつつ、地域や社会に貢献することができましたら幸いです。

会員だより

「リクルーターの経験を通して」

翔工会評議員 大分支部長 飯 星 允 規

平成19年 工学専攻電気電子工学コース修了



平成19年に電気電子工学専攻を修了しました飯星と申します。この度、評議員大分支部の支部長を拝命しました。微力ながら、母校の発展に貢献できるよう努めて参りますので、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

在学中は紫岳寮（男子寮）で6年間生活し、非常にパワフルな上の方や、個性あふれる同学、極めてやんちゃな後輩に囲まれ、濃い日々を満喫していました。全力の声量で挨拶をする寮生の姿は、寮外生の目に異様な集団として映っていたと思いますが、この時に学んだ礼儀作法、負けない精神力、そして個性を認め合う気持ちは、社会人になった今も自分を支えてくれています。

卒業後は新日本製鐵（現：日本製鐵）株式会社に入社し、早いもので、15年が経ちました。入社後は製造ラインにおける鋼板の寸法や温度といった品質を計測する計装設備導入のエンジニアリング業務をメインとしつつ、リクルーターとして大分大学との関わりを続けています。私が入社

したときは年が近い大分大学の先輩社員がいらっしゃらず心細い思いもしましたが、今ではコンスタントに採用させて頂いており、感謝しております。学生に接すると、当時の自分を思い返ししながら対話するため、毎回初心に帰ることが出来ます。その度に感じるものが、多くの学生が就職に対する漠然とした不安を抱えており、自分が本当にやりたい仕事よりも、知った先輩がいる企業や地元に近い企業といった目先の安心感を優先してしまう傾向が見られ、勿体ないと思っています。しかし、出身大学の後輩は可愛いもので、気付けば自社の利益度外視で相手の将来を考え、場合によっては他社志望を応援するといった事もしばしばです。社内では、飯星お悩み相談事務所とからかわれていますが、弊社に興味を持って頂ける学生も増え、会社に対するイメージのミスマッチも小さくなるため結果オーライだと思っています。最近では、良くも悪くもこの姿勢が後輩リクルーターへ伝搬し、お悩み相談事務所が開業出来そうな勢いです。地場にある企業として、このような関わりを今後も続け、相互理解を深めて行ければと考えています。

大分大学理工学部(工学部)同窓会 Facebookのお知らせ

同窓会副会長 松尾孝美

翔工会のFacebookを、東京支部副支部長の豊田耕一さんに開設していただきました。これから、内容を増やしていきたいと思いますので、どうぞ、ご利用をよろしくお願いいたします。

Googleで、「大分大学工学部同窓会」で検索すると、以下のように、Facebookページを見つけることができます。



翔工会ホームページのお知らせ

・ホームページのURL

※ ホームページのアドレスが変わりました。

<https://www.alumni.oita-u.ac.jp/shokou/>

機関誌PDFをダウンロードできます。

また、住所変更もできます。

・ホームページに関する質問や要望

同窓会活動に関する質問、要望等ございましたら、

shokou-request@oita-u.ac.jp

までご連絡ください。



理工学部ホームページのお知らせ

・ホームページのURL

<https://www.st.oita-u.ac.jp/>

各学科のホームページも紹介しております。

今現在の理工学部・各学科の様子をぜひご覧ください。



編集後記

機関誌発行委員長 創生工学科 建築学コース 黒木正幸

機関誌「翔工」第33号の発行に関しまして、ご多忙中にもかかわらず、快くご執筆をお引き受けくださいました先生方に厚く御礼申し上げます。また、各部会編集委員、同窓会事務の方々に感謝いたします。

昨年10月には理工学部創立50周年記念式典・記念講演会が執り行われ、皆様からのご理解とご協力をいただき同窓会も存在感を示すことができました。次年度の同窓会活動につきましては、まだコロナ禍の影響が残ると思いますが、ご意見などありましたら、ご連絡いただけますと幸いです。